

株式会社 商船三井

2025年11月26日

東京プライム市場上場
証券コード【9104】

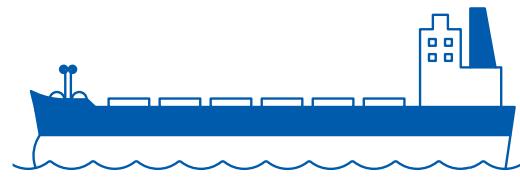


会社概要



創業140余年を迎えた
世界第2位の船隊規模をもつ
グローバル総合海運企業

商船三井の船隊規模(2025年9月末時点)



世界第2位
935隻

総資産額(2025年9月末時点)



5.3兆円

商船三井グループ 企業理念

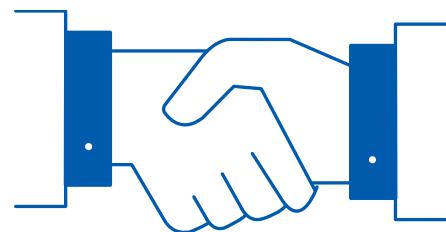
青い海から人々の毎日を支え、
豊かな未来をひらきます

MOLグループ全体従業員数(2025年3月末時点)



10,500名

グループ会社数 (2025年3月末時点)



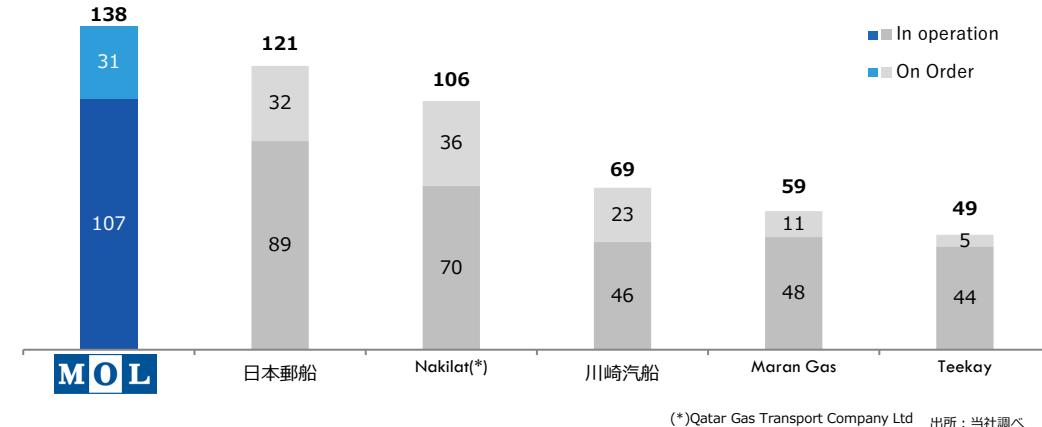
579社



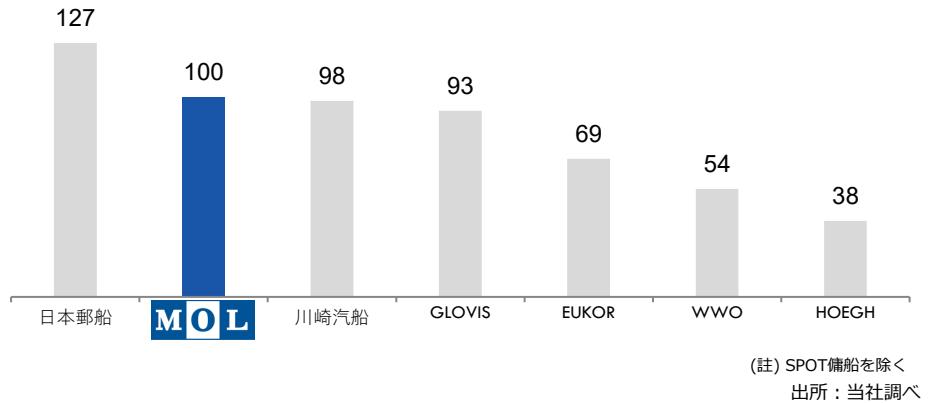


会社概要

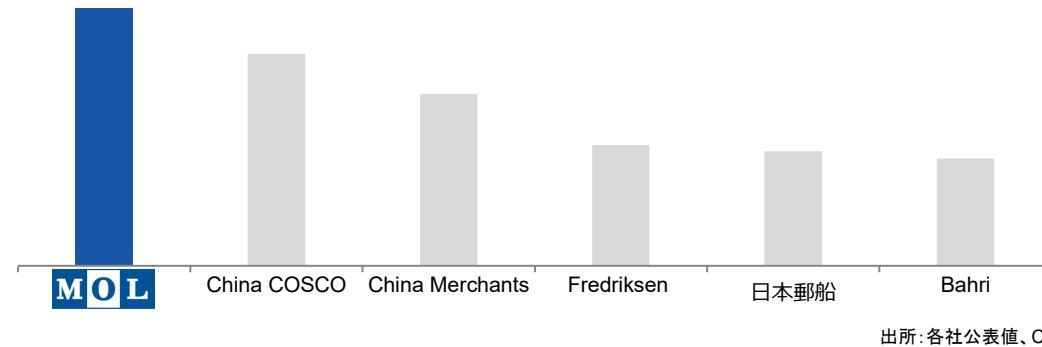
● LNG船 船隊規模 (2025年3月末時点)



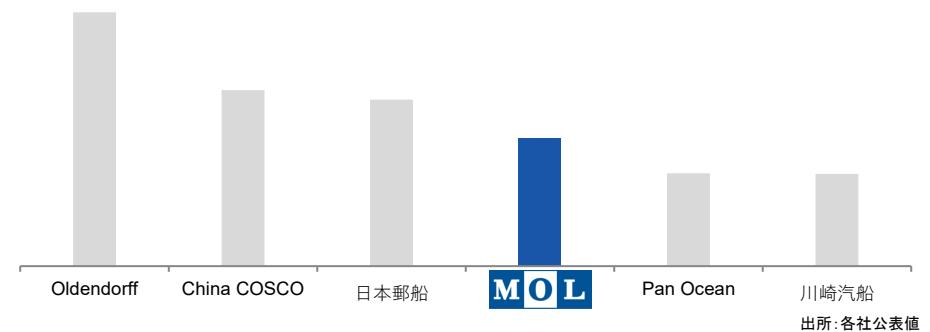
● 自動車船 船隊規模 (2025年3月末時点)



● タンカー 船隊規模 (2025年3月末時点) LNG船、エタン船を除く



● ドライバルク船 船隊規模 (2025年3月末時点)



目次

1. 株価の推移
2. ポートフォリオ変革
3. エネルギー事業
4. 株主還元、株主優待

1 株価の推移

当社の純利益・株価は、**海運市況に連動**する形で**大きく変動**してきた。



(註) 2017年10月1日付の株式併合（10株につき1株の割合）および2022年4月1日付の株式分割（1株につき3株の割合）後の株式数に基づいて換算した数値を記載。
2025年度の純利益は見通し数値。

当社の純利益・株価は、**海運市況に連動**する形で**大きく変動**してきた。



(註) 2017年10月1日付の株式併合（10株につき1株の割合）および2022年4月1日付の株式分割（1株につき3株の割合）後の株式数に基づいて換算した数値を記載。
2025年度の純利益は見通し数値。

当社の純利益・株価は、**海運市況に連動**する形で**大きく変動**してきた。



1 株価の推移

当社の純利益・株価は、**海運市況に連動**する形で**大きく変動**してきた。



(註) 2017年10月1日付の株式併合（10株につき1株の割合）および2022年4月1日付の株式分割（1株につき3株の割合）後の株式数に基づいて換算した数値を記載。
2025年度の純利益は見通し数値。

1 株価の推移

当社の純利益・株価は、**海運市況に連動**する形で**大きく変動**してきた。



(註) 2017年10月1日付の株式併合（10株につき1株の割合）および2022年4月1日付の株式分割（1株につき3株の割合）後の株式数に基づいて換算した数値を記載。
2025年度の純利益は見通し数値。

株価の推移

財務体質、利益水準が飛躍的に向上。自己資本2.5兆円を超える企業として**新たな成長ステージ**へ。

	コロナ前最高益時(2007年度)	最大赤字時(2012年度)	現在(*)
利益水準			
税引前当期純利益(億円)	3,182	▲1,379	2,150
当期純利益(億円)	1,903	▲1,788	1,800
財務状況			
自己資本(億円)	6,807	5,354	25,837
自己資本比率	35.8%	24.7%	47.9%
株価指標			
株価	4,017円(期末時点)	1,030円(期末時点)	4,408円
PBR(倍)	1.9	0.6	0.6
PER(倍)	7.6	▲2.1	8.9

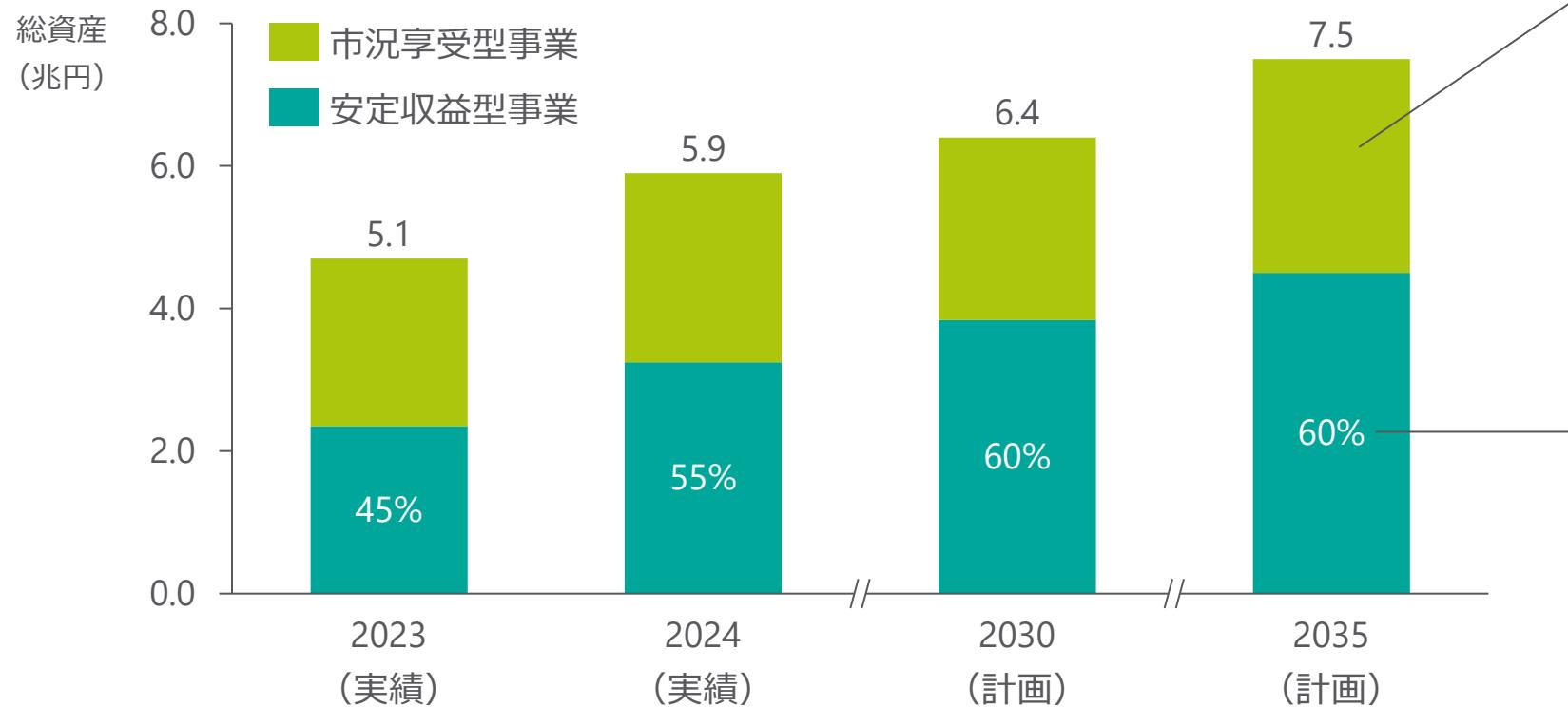
(*)株価指標は11月21日時点。
各指標は9月末時点、利益は通期見通し。

目次

1. 株価の推移
2. ポートフォリオ変革
3. エネルギー事業
4. 株主還元、株主優待

2 ポートフォリオ変革

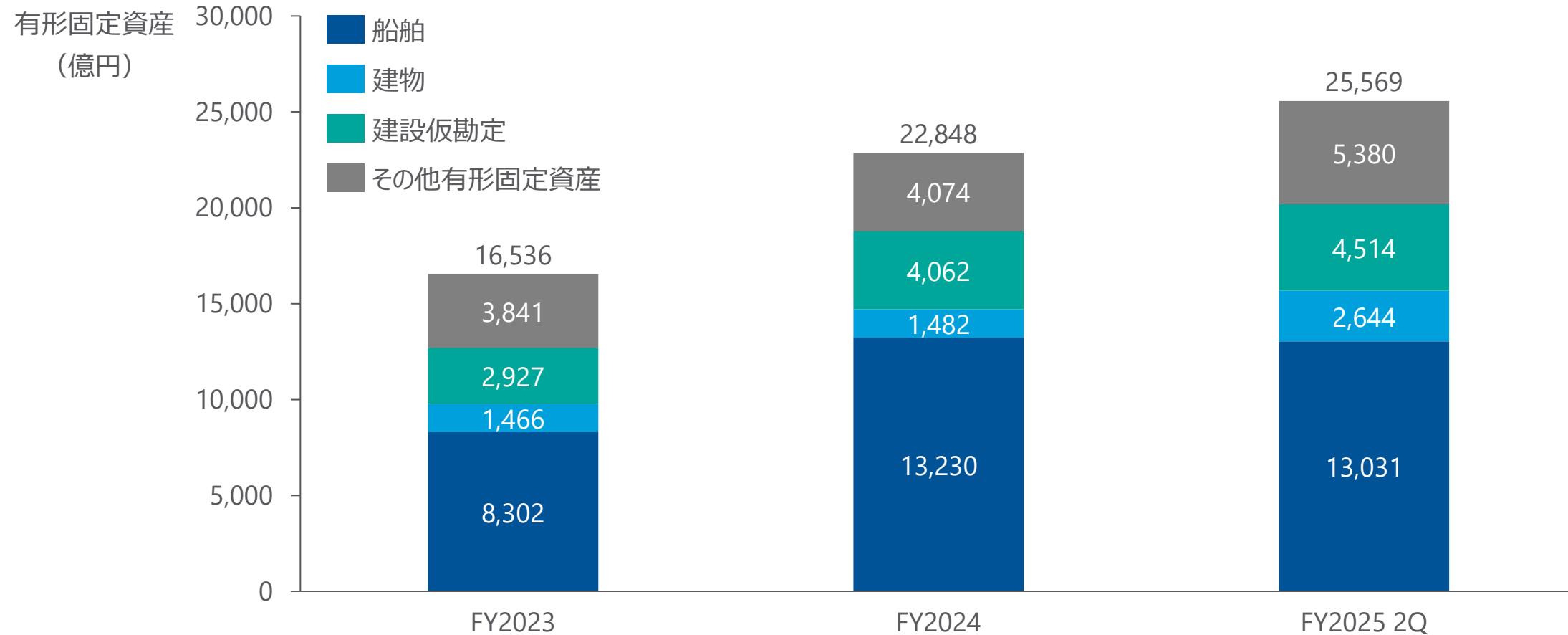
経営計画BLUE ACTION 2035のもと、海運市況軟調時も利益のボトムラインを引き上げる事業ポートフォリオ変革を推進。
成長と安定経営の両立を目指した投資を実行。



(註) 2030年、2035年度の値は「BLUE ACTION 2035」で定められた計画値。
IFRS導入後に織り込むべき将来備船料などオフバランス債務（約9,000億円）を含んだもの5想定。

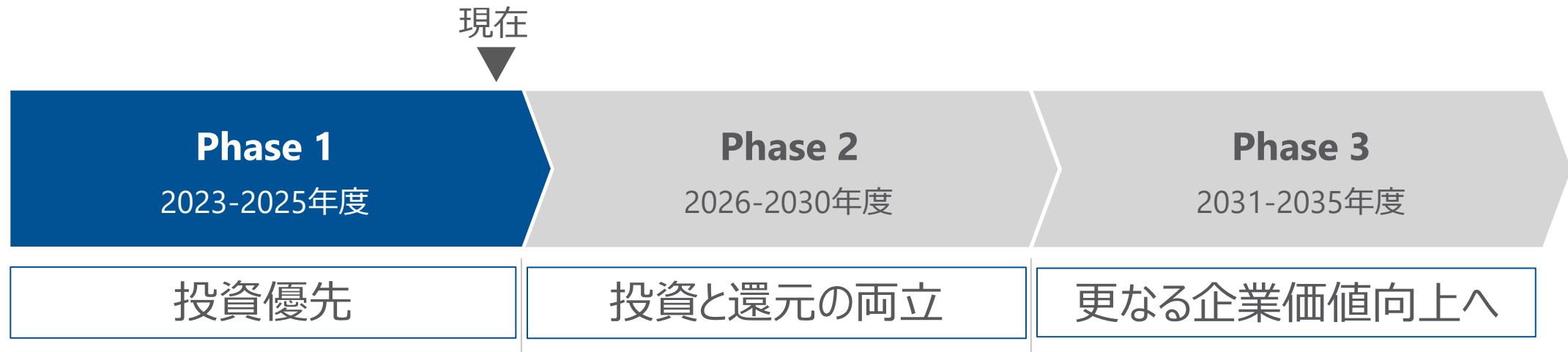
2 ポートフォリオ変革

積極投資により有形固定資産が**増加**。Phase2以降は投資の**成果を刈り取る**期間へ。



2 ポートフォリオ変革

経営計画BLUE ACTION 2035では、ゴールまでの期間を**3つのフェーズ**に分ける。

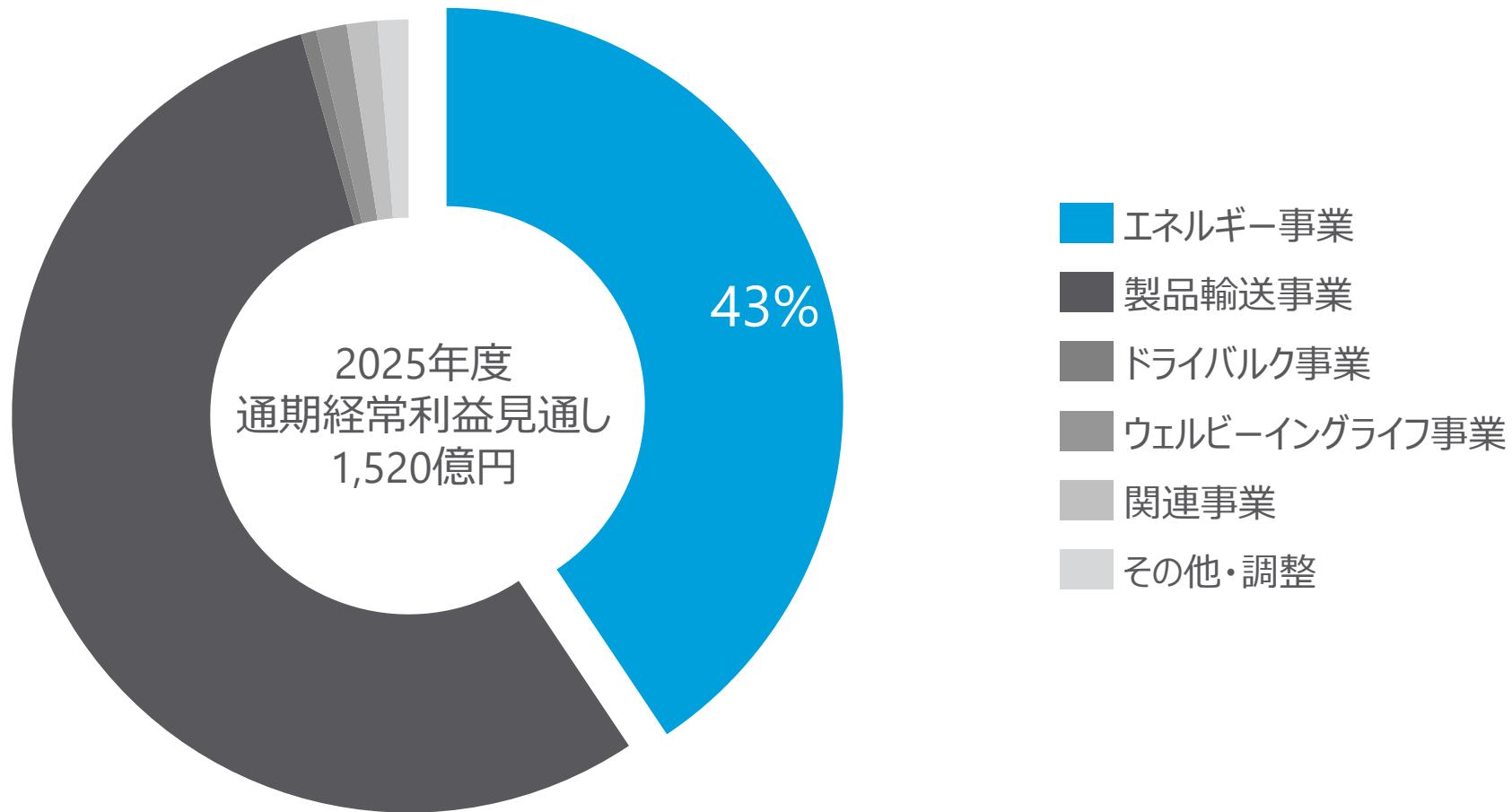


目次

1. 株価の推移
2. ポートフォリオ変革
3. エネルギー事業
4. 株主還元、株主優待

3 エネルギー事業

安定的な利益貢献と今後の成長を見込めるエネルギー事業に、積極的な投資を実行。



註：2025年度第2四半期決算発表時点での経常利益見通し

3 エネルギー事業

事業本部別の投資進捗 (キャッシュアウトベース。M&A、地域部門主導による案件も含む。)

(単位：億円)	市況享受型	安定収益型	Phase1 合計	BA策定時 Phase1 投資計画	Phase1で意思決定した 主な案件
ドライバルク	800	530	1,330	1,380	環境対応ドライバルク船 新造発注
エネルギー	1,990	8,000	9,990	5,300	LNG船・エタン船・LPG船・FSRU 新造発注 Fairfield (ケミカルタンカー) 買収
製品輸送	1,170	3,130	4,300	2,800	環境対応自動車船 新造発注 タンクターミナル 買収
WBL	-	3,550	3,550	2,750	クルーズ船 2隻 買取 国内外 不動産取得
関連・その他	-	540	540	50	システム関連等
合計	3,960	15,750	19,710	12,000	

※2025年9月30日までに投資決定済みの案件を集計対象とする。

※竣工時売船などによるキャッシュインや持分法適用会社による再投資は含まない。

※BLUE ACTION 2035開始時点での既決投資案件（約5,400億円）を含む。

3 エネルギー事業

エネルギーバリューチェーンにおける上流から下流まで、**垂直統合型の事業**に強みを持つ。

	ガス	ケミカル	オイル	その他
上流	探索			
	製造貯蔵荷役	 FLNG		 調査船
	海上輸送	 LNG燃料供給船  LNG船	 ケミカルタンカー	 Oil FPSO / FSO  サブシー支援船
中流	貯蔵ロジスティクス	 LNG発電船  FSRU / FSU	 タンクコンテナ  タンクターミナル	 CO ₂ 運搬船  ケーブル敷設船  洋上風力支援船  作業員輸送船
下流				

3 エネルギー事業

エネルギーバリューチェーンにおける上流から下流まで、**垂直統合型の事業**に強みを持つ。

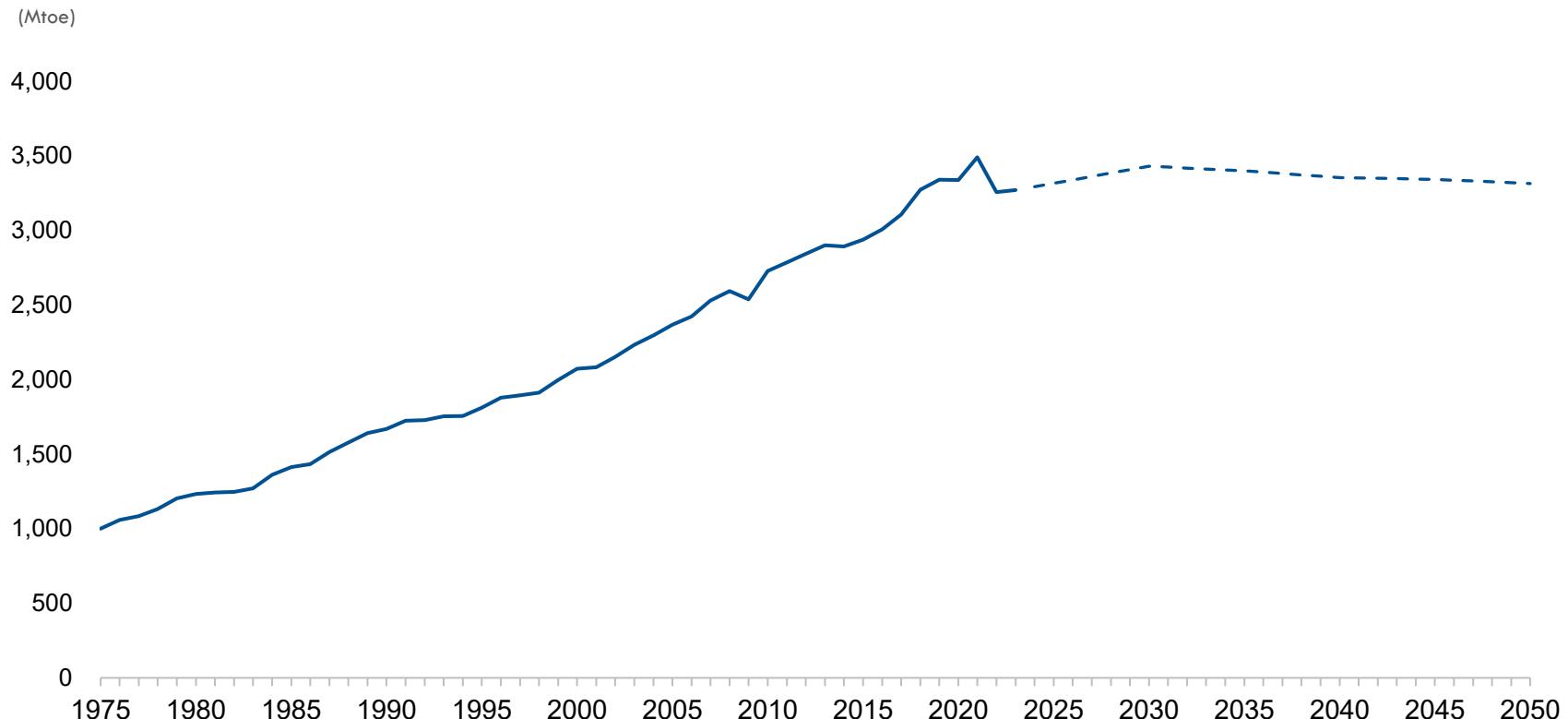


3 エネルギー事業 ~ガスバリューチェーン~

現時点で、天然ガスは商業的に確立された唯一の代替燃料であり、引き続き**堅調な需要**が見込まれる。



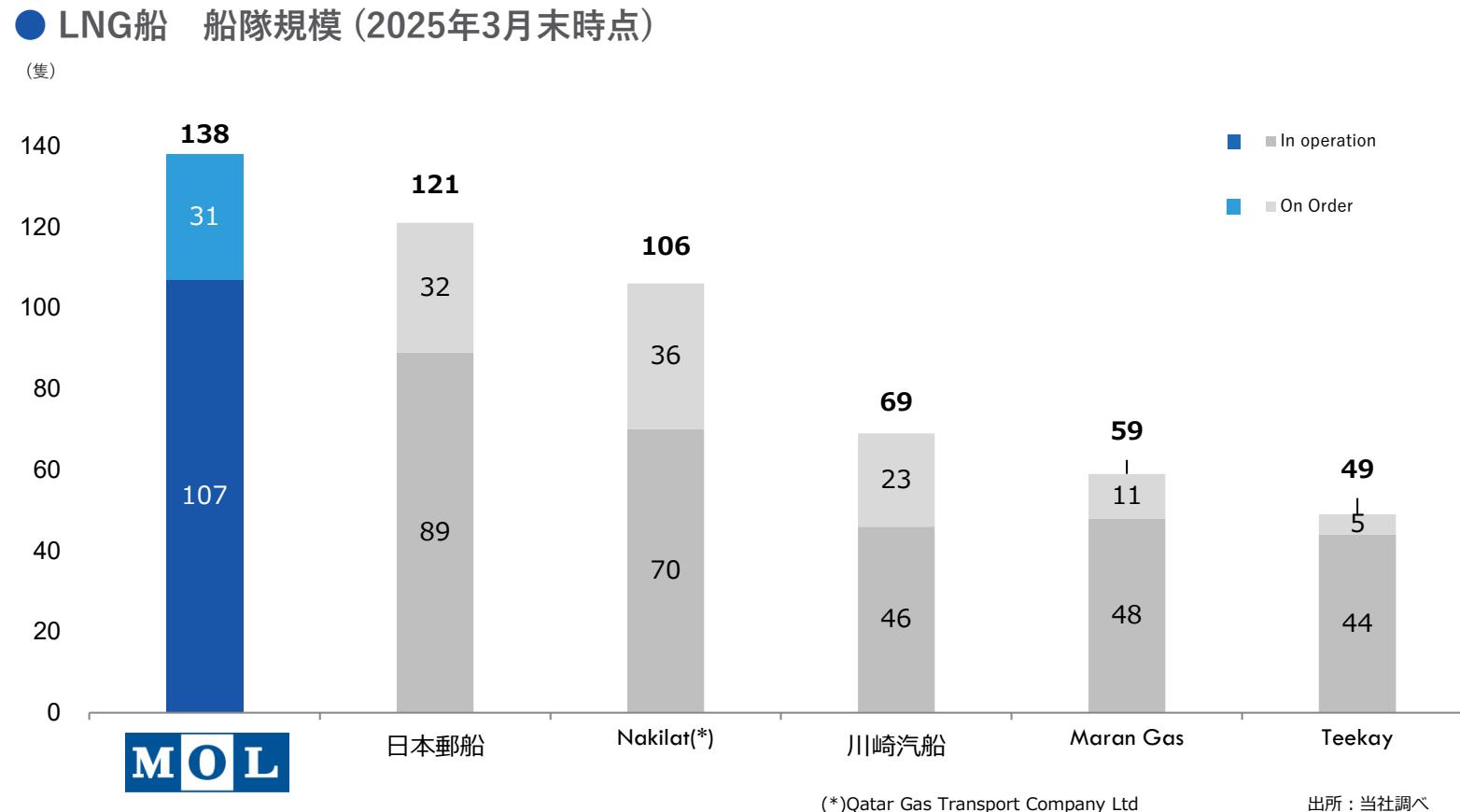
● 天然ガス消費量推移予測



出所：IEA World Energy Outlook 2024 Stated Policies Scenario を元に当社作成

3 エネルギー事業～ガスバリューチェーン①LNG船事業～

当社LNG船隊規模は、**世界No.1**を誇る。



3 エネルギー事業 ~ガスバリューチェーン②ガスインフラ事業~

当社は**アジアで唯一**FSRU事業を手掛けており、下流の分野でも**安定収益**を確保。

ガス



日本経済新聞

記事・株価を検索

朝刊・夕刊 LIVE Myニュース 日経会社情報 人事ウォッチ NIKKEI Prime

トップ 速報 ビジネス マーケット 経済 国際 オピニオン もっと見る #ノーベル賞 #中東情勢

商船三井、シンガポールで洋上LNG拠点 600億円で

物流・運輸 + フォローする
2024年10月23日 14:33 [会員限定記事]

保存

あ A 保存 写真 E n X f 山

速報ニュース >

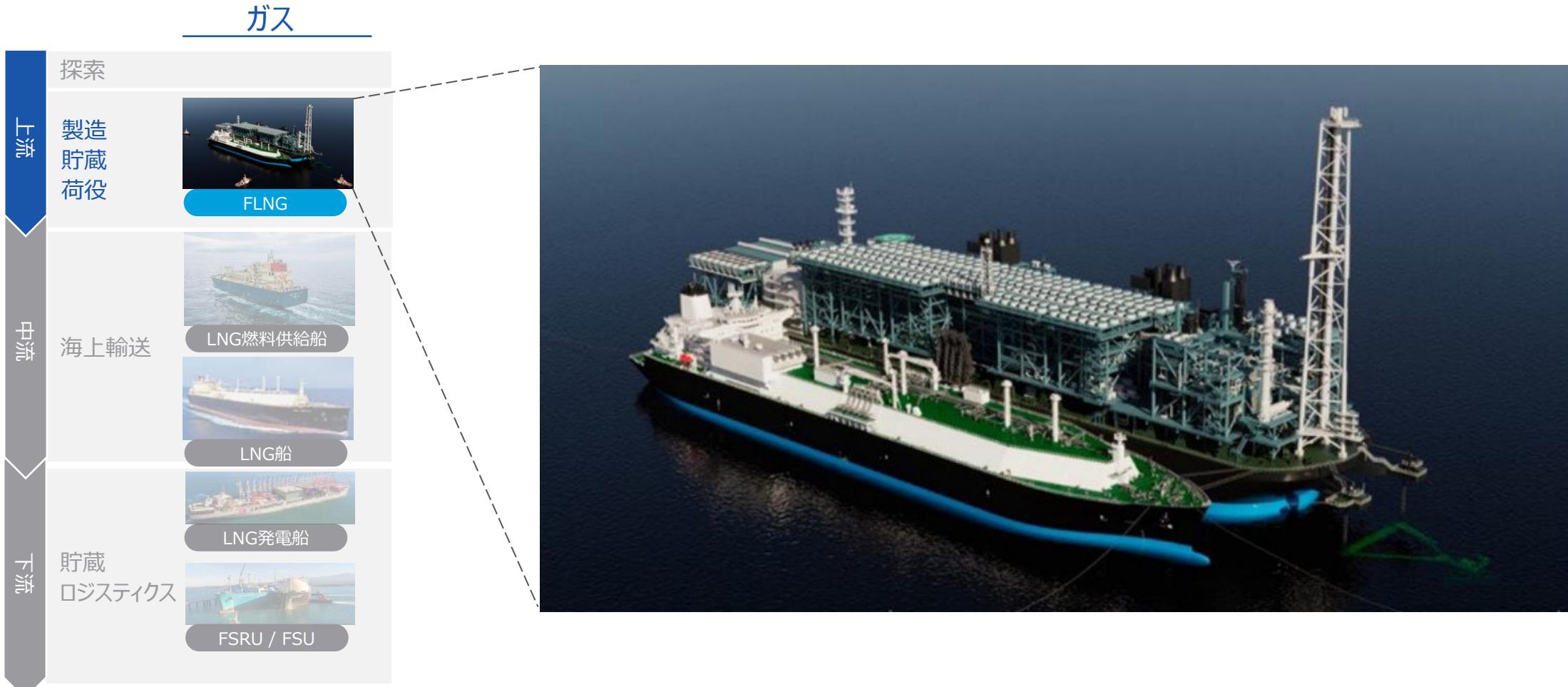
- 17:11 トーセの26年8月期、純利益3倍に 固定資産売却益計上で
- 17:09 JR九州、線路上にウエストHDの太陽光 駅施設に再エネ電力供給
- 17:07 カナディアが商業ベースで初のCO2回収施設 英国のゴミ焼却施設で受注
- 17:07 OSGの12~8月期、純利益2%減 米製造業が低迷

日経新聞「商船三井、シンガポールで洋上LNG拠点 600億円で」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC234SQ0T21C24A0000000/?msockid=05363be79d5861bd19a22fb29cb260c8>

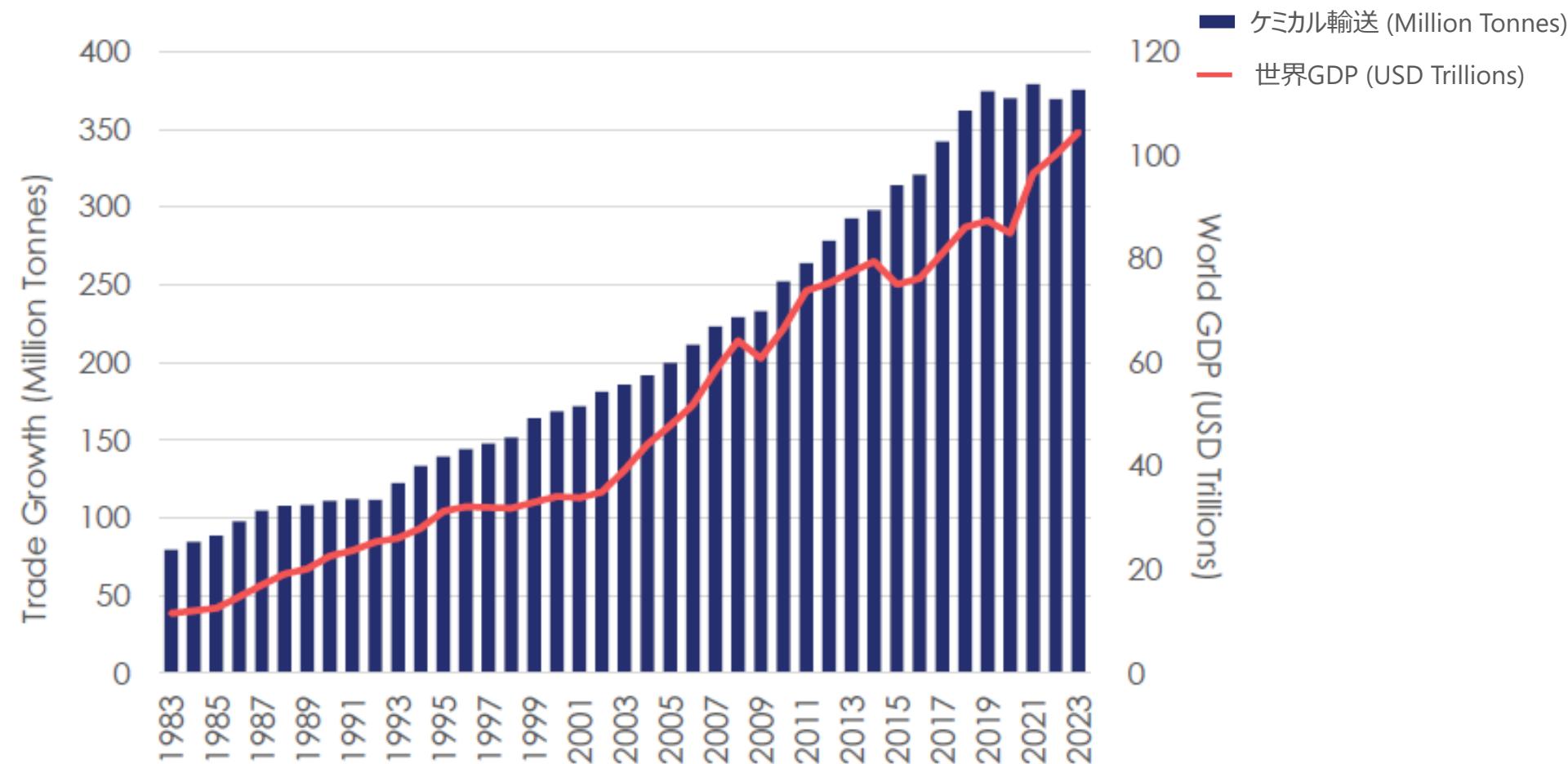
3 エネルギー事業～ガスバリューチェーン②ガスインフラ事業～

FLNG（浮体式洋上LNG生産設備）の開発を行うDelfin社へ出資し、**上流分野**にも事業を展開予定。



3 エネルギー事業 ~ケミカル物流~

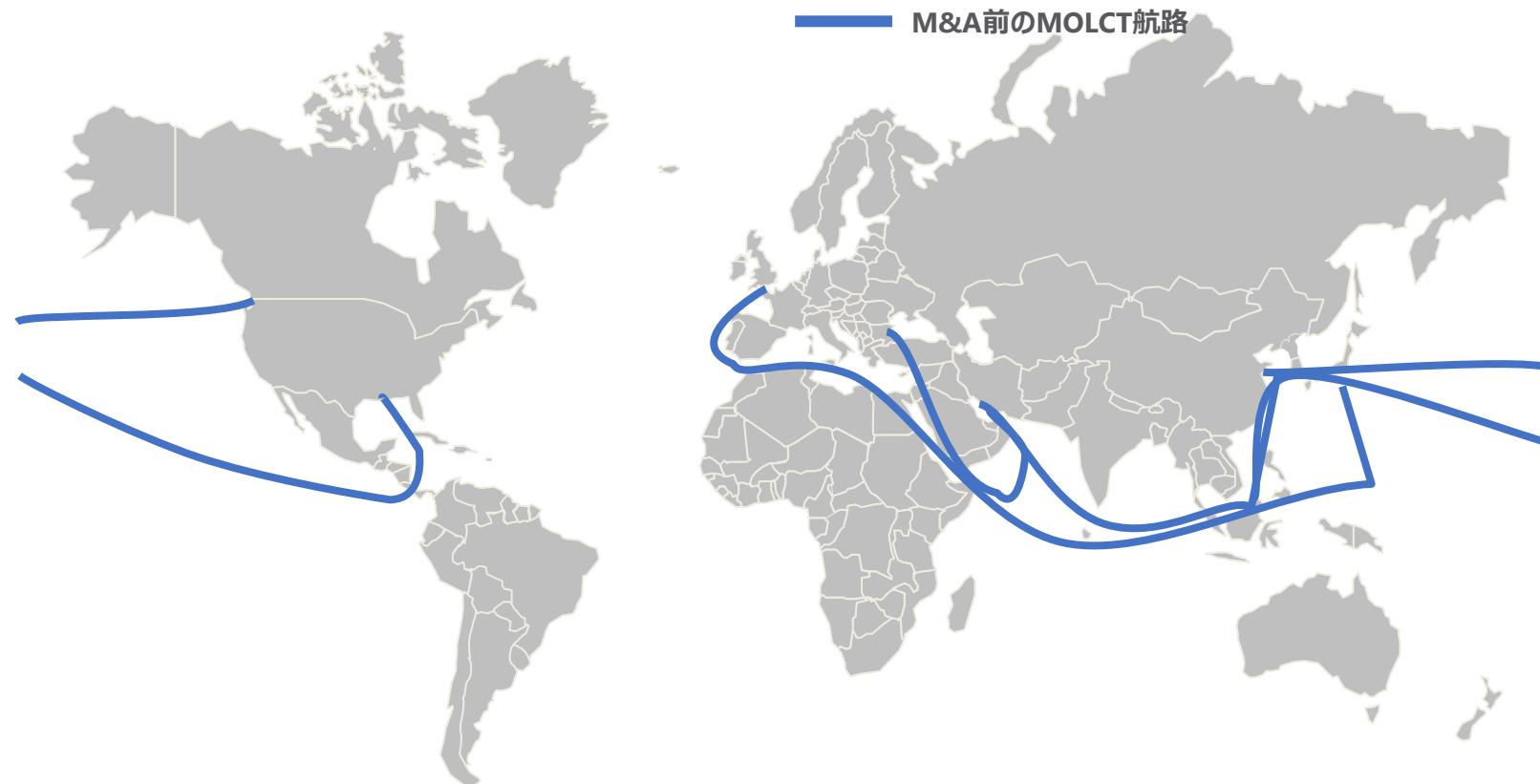
ケミカル船の輸送貨物の多くは**消費財の原料**であり、輸送需要は世界GDPと連動して**今後も伸びていく**と考えられる。



出典：Clarksons Chemical Tanker Market Outlook
prepared for Fairfield April 2024

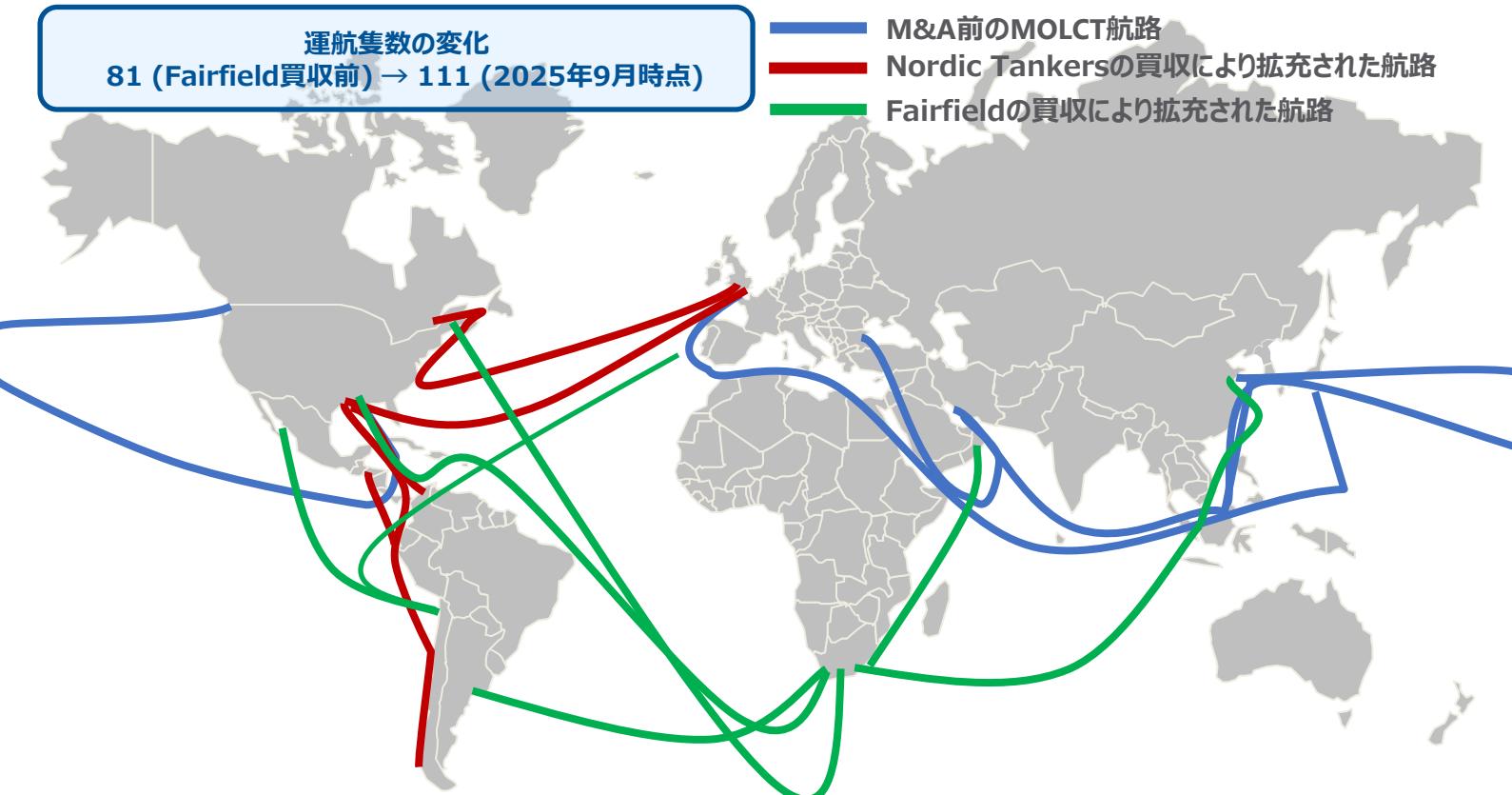
エネルギー事業 ~ケミカル物流①ケミカルタンカー事業~

戦略的なM&Aによって船隊規模を拡大し、広大な商圏を獲得。



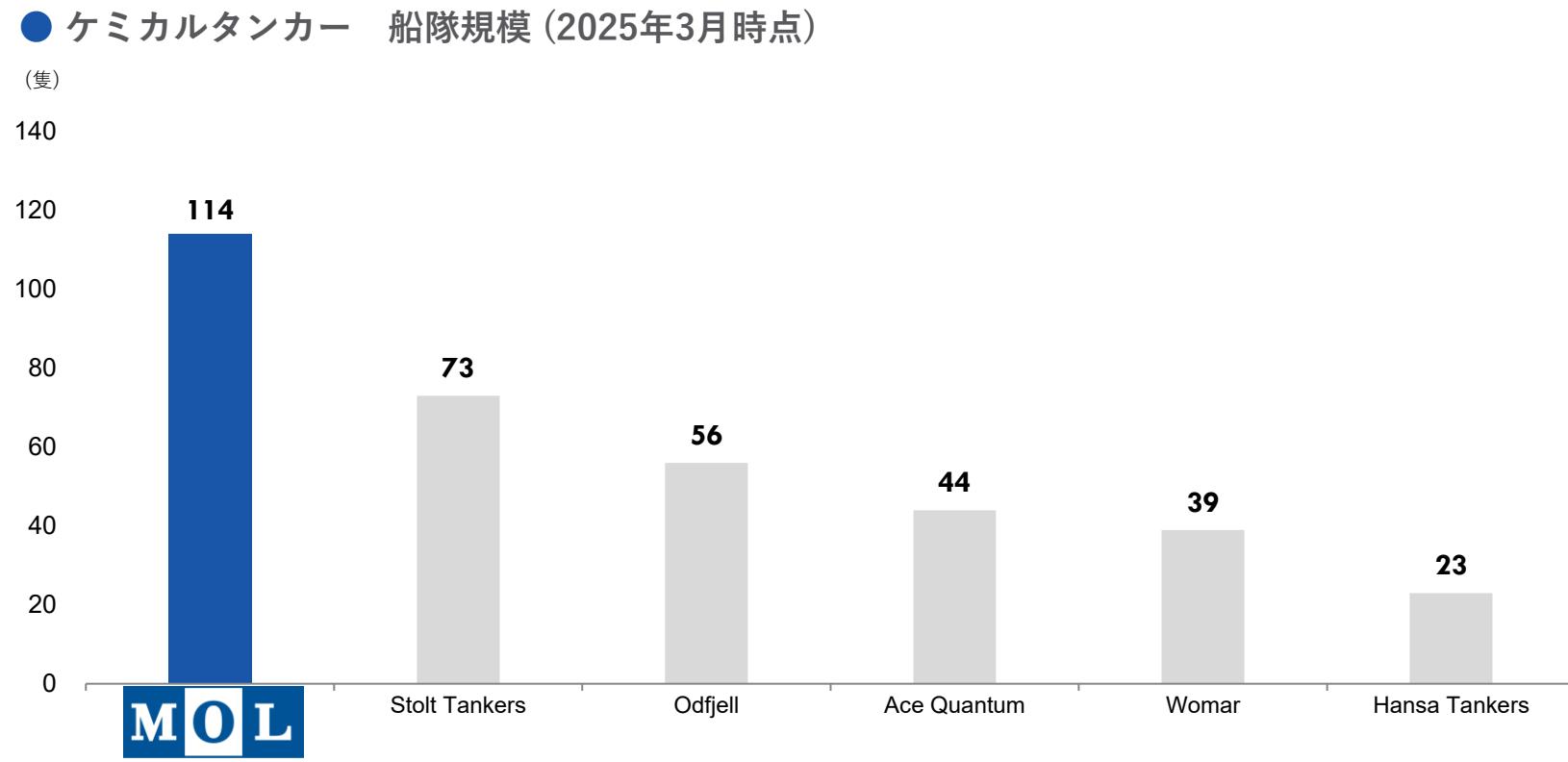
エネルギー事業 ~ケミカル物流①ケミカルタンカー事業~

戦略的なM&Aによって船隊規模を拡大し、広大な商圏を獲得。



3 エネルギー事業 ~ケミカル物流①ケミカルタンカー事業~

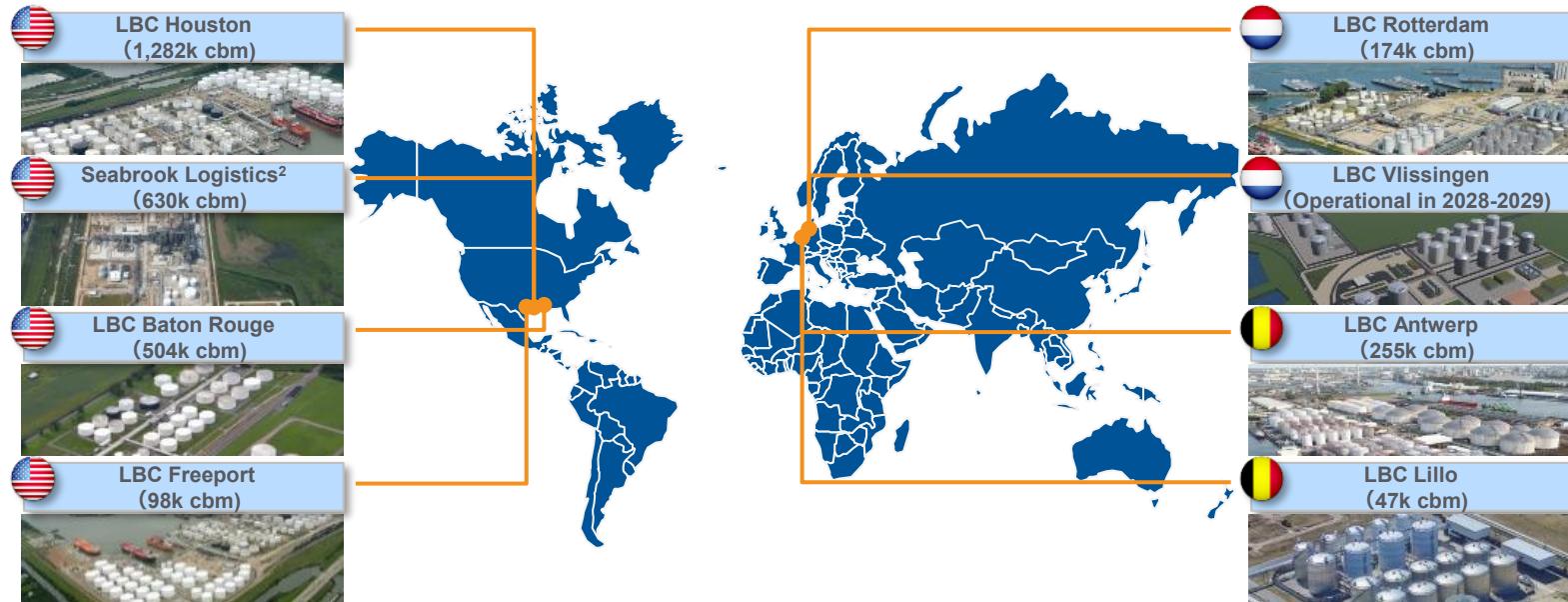
当社ケミカルタンカー船隊規模は、**世界No.1**を誇る。



出所:当社調べ
註:18k DWT以上のステンレスタンカー

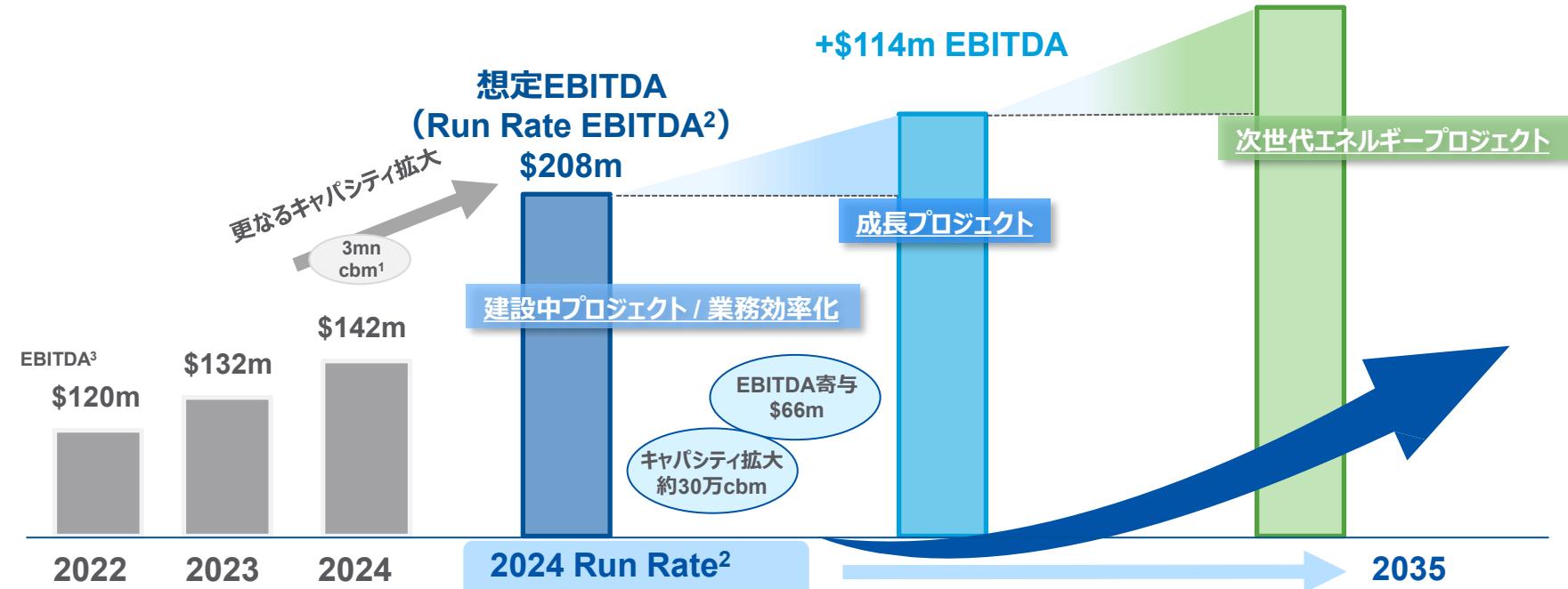
エネルギー事業 ~ケミカル物流②タンクターミナル事業~

貨物貯蔵サービスを提供する中長期契約により、海運市況に左右されない**安定収益**に貢献。



3 エネルギー事業 ~ケミカル物流②タンクターミナル事業~

タンクキャパシティの拡張や次世代エネルギープロジェクトの参画により、今後も**収益力の向上**が見込まれる。



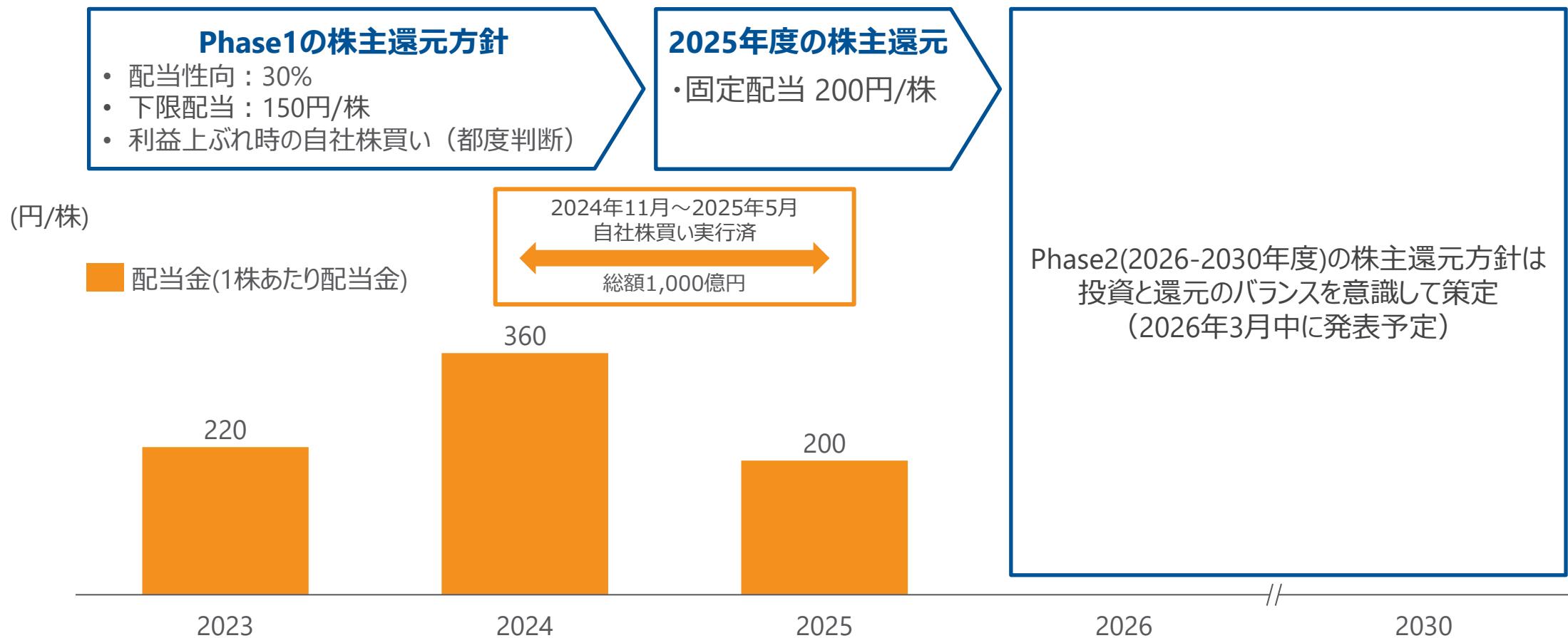
- 建設中プロジェクトによるキャパシティ拡張を含まない、FY2024時点のキャパシティ。cbm : 立法メートル
- FY2024 Run Rate EBITDA : 現在建設中のプロジェクトがフル寄与したと仮定した場合の、FY2024のEBITDA水準
- 2022~2024のEBITDAは、持分法適用会社であるSeabrook Logistics LLCのEBITDAの50%を含み、IFRS16号による影響を除外

目次

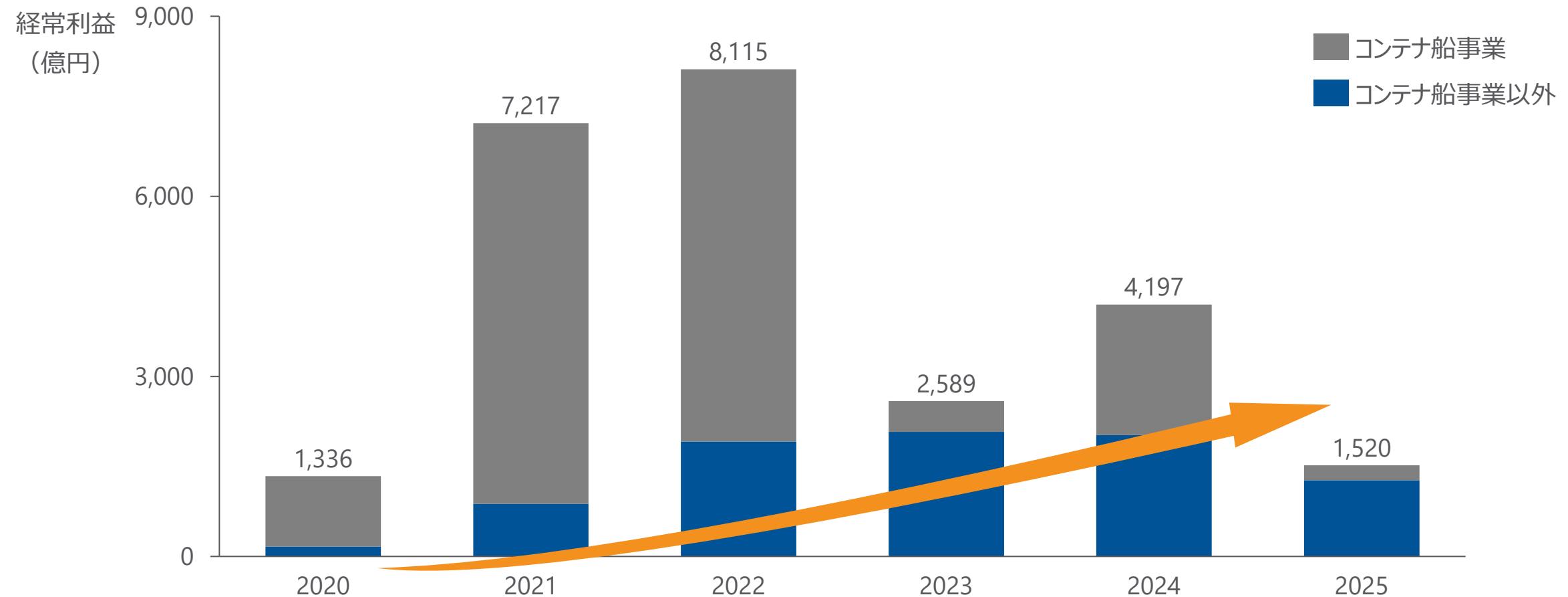
1. 株価の推移
2. ポートフォリオ変革
3. エネルギー事業
4. 株主還元、株主優待

4 株主還元と株主優待

来年度から開始するPhase2では、Phase1で実行した**投資の成果を最大化し、株主還元を強化。**

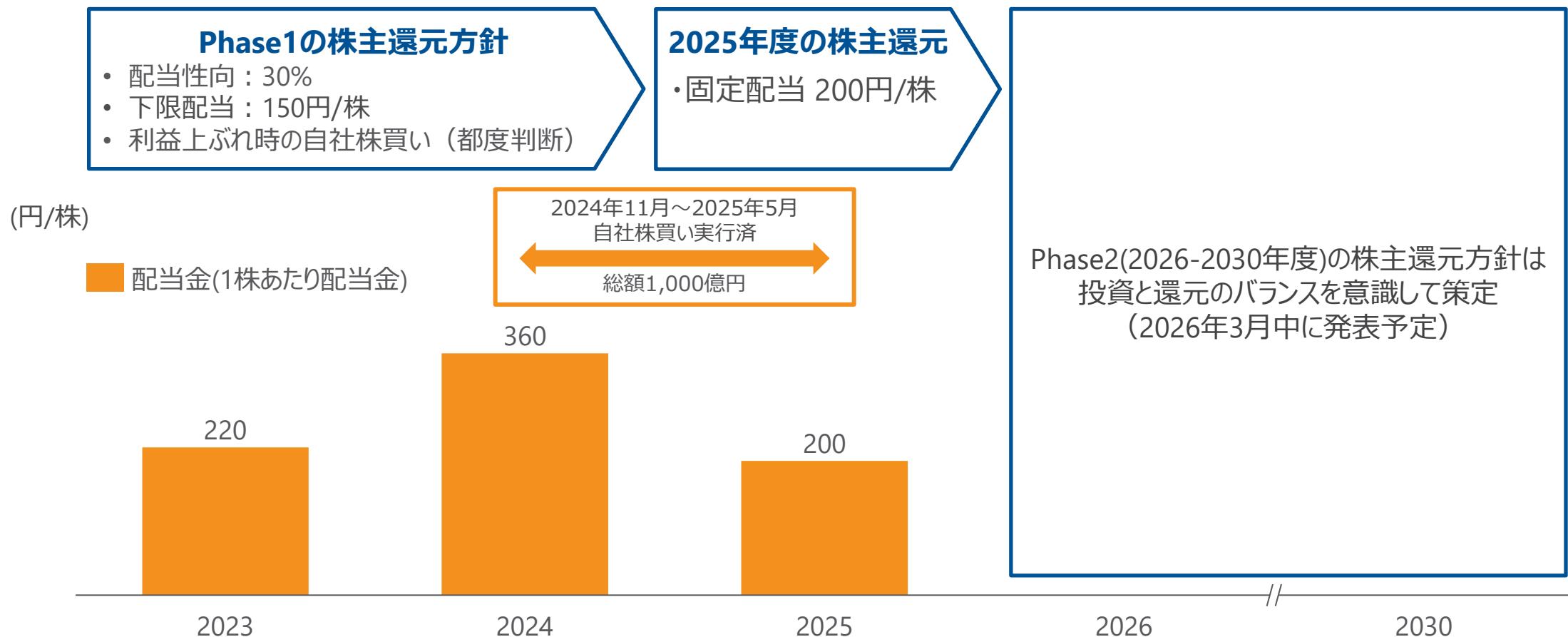


当社経常利益の推移



4 株主還元と株主優待

来年度から開始するPhase2では、Phase1で実行した**投資の成果を最大化し、株主還元を強化。**



4 株主還元と株主優待

株主様のご要望にお応えし、株主優待プログラムを拡充。 ※保有株数・期間に条件がございます。

オリジナルカタログギフト



クルーズ・フェリー乗船ご優待



各種発刊物も是非ご覧ください！

商船三井 IR資料室



MOL
商船三井

INVESTOR
GUIDEBOOK
2025

各種発刊物も是非ご覧ください！

商船三井 IR資料室



CEO MESSAGE
社長メッセージ

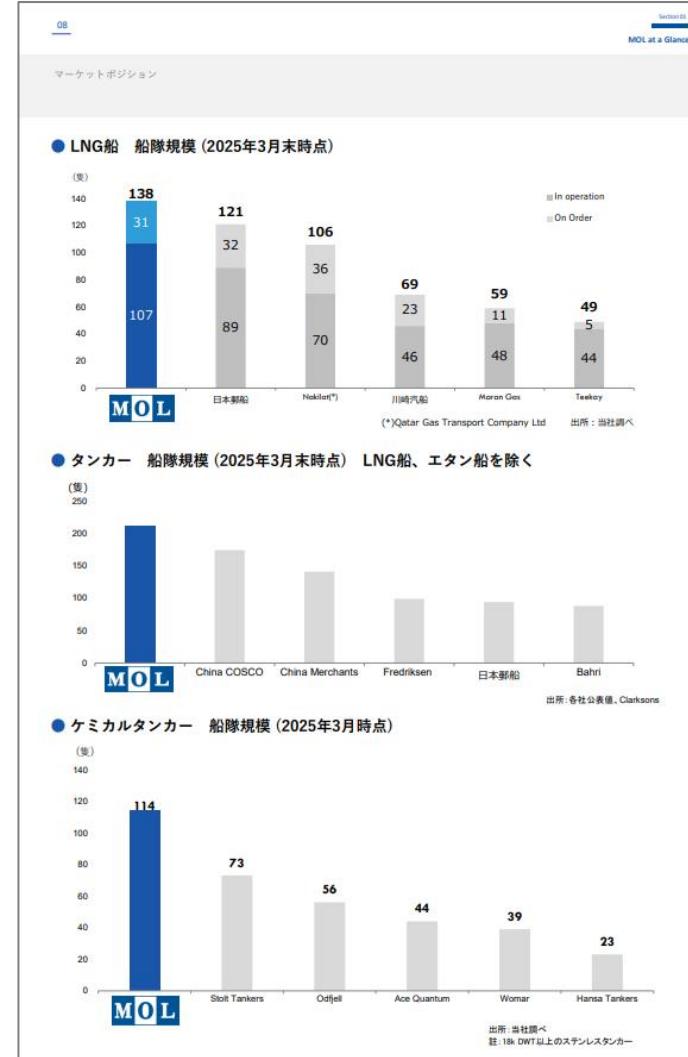
「成長と安定経営の両立」
それが私の使命です。

強いものをより強く Phase 1の総仕上げへ

- Phase 1ではポートフォリオ変革に向けた投資が計画以上に進捗
- Phase 2では稼げる事業構造していくために人財力・組織力を強化
- 長期的な収益性を確保するために、世界経済の実体をマクロとミクロの両方から捉える
- 安定利益と安定的な配当を実現し、信頼感・期待感を醸成することで企業価値を高める

代表取締役
社長執行役員
橋本 剛

09
MOL REPORT 2025





【免責事項】

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものです。

当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。投資に関する決定は、投資家ご自身の判断において行われるようお願い致します。

掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報に誤りがあった場合、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承下さい。

【見通しに関する注意事項】

本資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれております。

これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見込みです。

また経済動向、海運業界における厳しい競争、市場需要、燃料価格、為替レート、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を含んでいます。

このため実際の業績は当社の見込みとは異なる結果となる可能性があること、ご承知おき下さい。